モクモクさん
今月のモノづくりはなんですか？

今月は！

【広葉樹】と【針葉樹】について知ってみよう！！

今月は、材料として見る樹木のお話。
「広葉樹」と「針葉樹」について
その特徴を見てみよう！

キホンノキ

樹木には日本だけでみても、異なる自然環境から多くの種類をみることができます。

今回は、区別の方法として一般的によく用いられる【広葉樹】と【針葉樹】について、それぞれにどんな特徴があって、適した用途にはどんなものがあるのかを見てみましょう。

【広葉樹 - こうようじゅ】

特徴として分かりやすいのが、葉と幹の形状です。広葉樹はその名の通り、手のひらを広げたような平たい形の葉をもち、幹は太く曲がった形状をしていることが多い木です。また、細胞組織が複雑で密度の高い広葉樹は、針葉樹に比べて木そのものが堅く、耐久性に優れるため、日常的に使う家具材として用いられることが多い木です。

【針葉樹 - しんようじゅ】

針葉樹の葉もその名の通り、針のように細く先が尖った葉をもち、幹は真っ直ぐ伸びていることが多い木です。針葉樹の細胞組織は、複雑な広葉樹とは異なり単純で、整然と配列されることから隙間がうまれ、密度が低くなり軟らかい木となります。真っ直ぐ成長し、軽く加工しやすい針葉樹は、柱や梁、建築用途として構造材などで用いられることが多い木です。

【成長を願って －ひな人形】

女の子の成長や幸せを願って行われるひな祭り。そこで飾られる「ひな人形」には、各地で様々な形式のものがあります。伝統的な七段飾りのものから、吊るして飾る「つるし雛」。最近ではキャラクターを模したひな人形なども登場し楽しまれています。

今回は様々に変化する「ひな人形」について、その由来などをお話します。

ひな祭りの由来は、中国から伝わった「五節句」という行事のひとつ「上巳（じょうし）」とされます。季節の節目とされる「節」の頃は、昔から邪気に見舞われやすい日とされ、中国では川で身を清める習慣がありました。中国ではすでに三国時代、魏で３日を上巳として定め、この習慣が行われていましたが、日本では平安時代にこの習慣を取り入れ、紙などで作った人形で自分の体を撫でてけがれを移し、川に流すことで邪気はらいをしていました。

「上巳」の風習が広まる頃、貴族の子どもの間で「雛あそび」と呼ばれる人形遊びが流行します。雛あそびの「ひな」「雛」には、ちいさくかわいらしいものという意味があり、この人形遊びと「上巳」が結びつき今の「ひな祭り」の原型になったと考えられています。

秋岡コレクションに収蔵されるひな人形などの郷土玩具は、「日本の手仕事道具 秋岡コレクション No.20」に掲載しています。

今日は何を知ろうか

ふかよみコレクション

生活環境の変化から、現在では写真のような内裏（だいり）びなのみの【親王（しんのう）飾り】も多く普及している。

男びなの着物には【菱形】の模様が彫込まれている。

女びなの着物には【桃の花】と思われる模様が彫込まれている。

桃の花は、中国では**魔除けの霊木**として崇拝されている。

今月の一品

かくれた一品　おすすめの一品
毎日　オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！

商品名：カッティングボード
価　格：大 /4,400 円（税込）
中 /3,850 円（税込）
小 /3,300 円（税込）
樹　種：カバ

今回ご紹介する商品は「アトリエもくれん」のカッティングボードです。サイズは大・中・小の三種類。

カッティングボードという名前ですが、形がユニークでテーブル映えしますのでお料理やおつまみ、スイーツなどを素敵に盛り付けるプレートとしてのご利用がおすすめです。持ち手がついているので持ち運びも便利です。

おひなまつりや卒業、入学などご家庭でのお祝い事も多いこの季節。様々なシーンで大活躍してくれそうな一枚です。

ショップ販売員
平

おしらせ

オケクラフトセンター森林工芸館のＨＰ上では、**【今月の一品】**とは異なる視点でオケクラフトの紹介が始りました。

季節のイベントやことわざ、生活に関係するちょっとしたお話と合わせて、オケクラフトが紹介されています。

始ったばかりですが、ささいな物事に「はっ」と気付かされる興味深い内容です。【森林工芸館のあれこれ】と合わせて、ぜひご覧ください。

そのほか、インスタグラムなどでもお気軽に。

―あれこれ編集後記―

令和二年の四月からはじまった「森林工芸館のあれこれ」も、今月号で丸二年を迎えました。

オケクラフトや、秋岡コレクション、作り手のことなど、知っているようで知らなかった様々な情報をお伝え出来ていれば嬉しいです。

さて、来月発行の四月号からは三年目。皆さんにもっと「森林工芸館のあれこれ」を知っていただけるように、新しいコーナーを始めてみようかと検討中です。

今後も、よろしくお願いいたします。